

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月1日

事業所名 音楽療法センター コスモス・キッズ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	個別、もしくはグループでの療育なのでスペースは十分ある	
	2	職員の配置数は適切である	8	1	個別でも2~3人体制を取っている。	職員の意識の共有を図りたい
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9	0	入口も段差はない。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	子ども対応と保護者対応を分担している	ミーティングの回数を増やすなど職員の意識の統一を図りたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	目安箱を設置し、意向のあった時に話し合っている	スタッフ全員で共有する機会を持ちたい
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	3	解りやすい情報の発信に努めている	ホームページリニューアル中でまもなく公開する
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	2		今後は法人の監査を外部評価に位置付けていきたい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	1	積極的な参加を呼びかけている	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	1	複数の職員で話し合っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	3	職員間で情報共有してアセスメントしている	職員間のコミュニケーションを図る機会を増やしていきたい
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	2	個々のセラピストの個性を生かした支援プログラムを立てている	お互いにアドバイスしあったり、支援会議を常に行うなど共有しあっている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	3	個々に合わせて考えている	固定した方が良い場合もある
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	4	グループを組むなど変化させている。	ミーティングの回数を増やすなど職員の意識の統一を図りたい
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	9	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0		
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	0			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7	2	常に話合っている	職員の意識の統一を図っていきたい	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0	なるべく複数で参加するようにしている	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	1	保護者からの情報を得ている	学校との直接的な情報共有はほぼなく、行事等は保護者から確認 送迎なし、母子同伴の為
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	0	医療的ケアの必要な子どもはいない	保護者同伴の為 医療ケアが必要な子どもは受け入れていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9	0		親を介して サービス担当者会議の際は情報共有している
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	3	保護者を通じて情報を得ている	今後は連携を取っていきたい
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	0		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	3	保護者を通じて情報を得ている	連携を取る機会がないのが実情
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7	2	法人として本部の人員が参加している	情報共有は常にしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	毎回療育時間の前後に保護者と話合っている。	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8	1		今後は取り入れるよう検討していきたい
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	0		クリスマス会などの自主イベントにて交流している
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1		苦情対応は法人本部も一緒に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0		
	35	個人情報に十分注意している	9	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	0		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	3	外部研修等に参加している。	今後も積極的に外部研修に参加していきたい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	7	危険回避以外の身体拘束は無い	身体拘束はしない 支援中も保護者が様子を見られるモニターを設置し、状況を確認できるようにしている
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	0		食事提供はしていない
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0		